

臨床研究活性化を特色とした介入型研究支援コアファシリティの構築

(代表機関) 名古屋市立大学

(協力機関) 豊橋技術科学大学、株式会社ニコンソリューションズ、株式会社島津製作所、蒲郡市民病院

1. 5年後の「達成目標」、達成された時の「姿」

- ✓ 戦略的機器整備・人材育成の意思決定を一元化
- ✓ 共用機器センター組織の再編
- ✓ リエゾン人材介入型コアファシリティの構築

統括部局を中心とした、臨床研究と研究基盤を繋ぐ研究支援モデルの確立

2. これまでの取り組みと解決すべき「課題」(ボトルネック)

これまでの取り組み

- ✓ 新たな共用システム導入支援プログラム
～共用機器センター設置 (H29)
- ✓ 研究活動再開等のための研究設備の遠隔化・自動化による環境整備～学外から学内へアクセスの仕組みを構築、一部機器の遠隔化・自動化 (R2)

大学を取り巻く変化

- ✓ 東部医療センター、西部医療センターを大学付属病院化 (R3)
- ✓ 「名市大新未来プラン2021」で研究基盤の拠点整備と拡充 (R2)

解決すべき課題

- ① 機器管理に限られた体制でなく、研究支援を効果的に行うための組織・システムが必要
- ② 臨床研究と基礎研究を繋ぐスキルをもった技術職員の強化が必要
- ③ 研究機器を用いた高度解析手法をもった技術者の育成が必要
- ④ 研究RX (サンプル供給の自動化、AIなどを用いた自動解析システム) を目指した仕組みが必要
- ⑤ 外部研究機関・医療機関からの遠隔利用・ネットワークの高度化が必要
- ⑥ 本学および外部機関による研究基盤の積極的活用とそれを支える財政基盤の強化が必要

3. 目標達成に向けて、どういう戦略で取り組むか

① 統括部局・共用機器センター、学外利用受付・臨床検体受託解析のためのワンストップ窓口の再編



④ 研究機器メーカーとの産学協働による汎用研究機器の新たな自動・遠隔システムの構築とプログラミング実践



② 技術職員のキャリアプランとして、リエゾン人材育成プログラムを整備し高度なコンサルティングスキルの醸成



⑤ 機器管理システムの拡充・整備および研究DX等に対応したネットワークの高度化



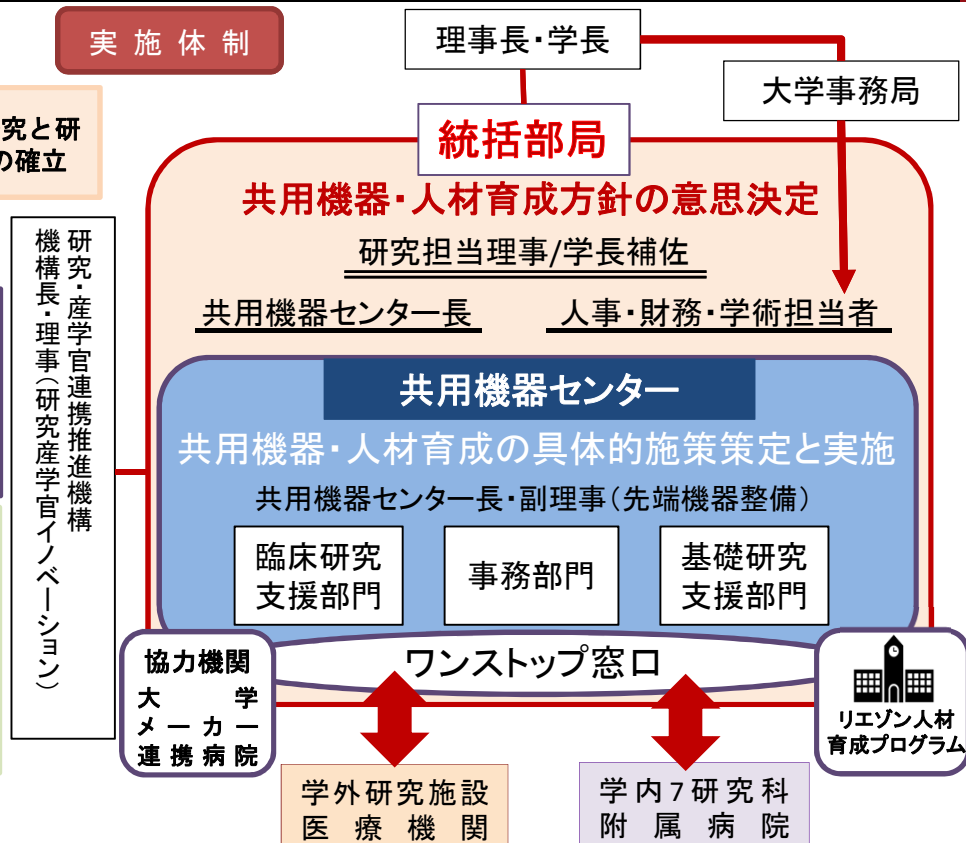
③ 試料作製・研究機器の取り扱いメンテナンス等の、研究支援に必要なトレーニングの実施



⑥ 近郊大学・研究機関および医療機関への水平展開を行い、名市大モデルの浸透



実施体制



研究・産学官連携推進機構
機構長・理事(研究産学官イノベーション)

本事業の工程表

戦略	R3	R4	R5	R6	R7
① 組織	再編	運営・実施			
② 人材教育	育成プログラム作成	講座受講・認定	活動・生涯学習		
③ 支援実践	支援方法の策定・検討	解析トレーニング	専門的支援・解析の実施		
④ RX	機器打ち合わせ	機器整備		運用検証	
⑤ 環境整備	管理システム設計整備	NW企画・計画	導入	SV更新	
⑥ 活用	企画・広報		利用拡大		